

# Electrical storm をきたした Brugada 症候群 2 症例： Transvenous ICD 症例と Subcutaneous ICD 症例

中島 孝<sup>1</sup> 久保田知希<sup>1</sup> 山田雄大<sup>2</sup> 鈴木圭太<sup>2</sup>  
山浦 誠<sup>2</sup> 高橋茂清<sup>2</sup> 高杉信寛<sup>1</sup> 金森寛充<sup>1</sup>  
牛越博昭<sup>1</sup> 青山琢磨<sup>2</sup> 川崎雅規<sup>1</sup> 西垣和彦<sup>1</sup>  
湊口信也<sup>1</sup>

二次予防で植込み型除細動器 (ICD) 植込みを行い，その後心室細動 (VF) Strom となった Brugada 症候群 (BrS) 2 例を報告する．1 例は完全皮下植込み型除細動器 (S-ICD) 症例，1 例は経静脈的 ICD (TV-ICD) 症例である．【S-ICD 症例】42 歳男性．2015 年 7 月に VF による心肺停止から蘇生した．ピルシカイニド負荷で type 1 Brugada 心電図を認めため，BrS と診断された．ICD の植込みは拒否された．2016 年 7 月，再度 VF による心肺停止から蘇生した．ICD 植込みを承諾し，S-ICD 植込み術が施行された．同年 10 月，VF に対する適切作動を一晩で 5 回認めた．すべて適切作動で，shock 1 回で VF は停止していた．【TV-ICD 症例】33 歳男性．2012 年，VF による心肺停止から蘇生した．Type 1 Brugada 心電図を認めため，BrS と診断され，TV-ICD 植込み術が施行された．植込み後 1 年間で，VF に対する適切作動を 18 回認めた．キニジンおよびシロスタゾール内服下に，以後 2 年間にわたって適切作動は認めなかった．2016 年 5 月，antitachycardia pacing (ATP) で停止する心室頻拍が確認された．ATP が有用な BrS があるため，ATP 機能のない S-ICD の BrS に対する適応を考慮するにあたり，示唆に富む症例と思われた．

**Keywords**

- Brugada 症候群
- 心室細動
- 完全皮下植込み型除細動器
- 抗頻拍ペーシング

<sup>1</sup> 岐阜大学大学院医学系研究科再生医科学循環病態学  
(〒 501-1194 岐阜県岐阜市柳戸 1-1)  
<sup>2</sup> 木澤記念病院循環器病センター循環器内科

## I. はじめに

完全皮下植込み型除細動器 (subcutaneous implantable cardioverter defibrillator : S-ICD) は，心臓内にリードを留置しないため，これまで経静脈的 ICD (transvenous-ICD : TV-ICD) で生じていたリード感染や断線，それに伴うリード交換や感染リスクが減少することが期待される<sup>1)</sup>．本邦でも 2016

*Two Patients with Brugada Syndrome Presenting Electrical Storm*

*Takashi Nakashima, Tomoki Kubota, Takehiro Yamada, Keita Suzuki, Makoto Yamaura, Shigekiyo Takahashi, Nobuhiro Takasugi, Hiromitsu Kanamori, Hiroaki Ushikoshi, Takuma Aoyama, Masanori Kawasaki, Kazuhiko Nishigaki, Shinya Minatoguchi*